

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和3年9月分）

【製造業】

○製造業は、7月の鉱工業生産指数は前月比▲4.4%と低下。ヒアリングでは、中国景気が減速する中であっても過去最高の売上水準を継続しているとの好調な声があった一方、半導体不足や東南アジアなどでのロックダウンに伴う現地工場の稼働停止による生産活動の停滞、原材料価格の高騰による収益性の悪化を懸念する声が多く聞かれた。

【地場産業】

○地場産業は、7月の鉱工業生産指数は、食料品とパルプ・紙を除いて低下した。ヒアリングでは、通信販売や単価の高い商品の販売が好調であるとの声もあったものの、イベント関係で消費される商品の需要が伸びないとの声や昨年から売上が回復していない、との厳しい声も聞かれた。

【設備投資】

○設備投資は、7月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比で85.2%増加した。ヒアリングでは、国の事業再構築補助金を活用した設備投資の動きが見られ、行政の後押しが効いていると感じる、との声が金融機関から聞かれた。

【個人消費】

○個人消費は、8月の販売額は、コンビニを除いて低下した。ヒアリングでは、コロナ禍で顧客の消費行動に変化を感じているとの声や、緊急事態宣言等の影響で売上や客足が落ち込んでいるとの厳しい声があった。

【観光】

○観光は、7月中下旬から感染拡大第5波が始まり、8月20日にまん延防止等重点措置区域、さらには同月27日に緊急事態措置区域に指定されたこと等により、8月の客数は観光地、宿泊施設ともに、コロナの影響を受ける前の前々年の半数以下に留まっている。宿泊施設からのヒアリングでは、緊急事態宣言に加え、8月中旬の豪雨等の影響により宿泊予約のキャンセルが発生しており、依然として厳しい状況が続いているとの声があった。

【資金繰り】

○企業の資金繰りは、8月の制度融資実績は、件数、金額ともに4ヶ月連続で前年同月比で減少した。金融機関からのヒアリングでは、飲食業やサービス業では実質無利子無担保融資で調達した手元資金が減少してきているため、今後の事業継続を懸念する声もあった。

【雇用】

○雇用面は、8月の有効求人倍率が1.46倍と4ヶ月連続で上昇した。ヒアリングでは、人手に過剰感があるとの声もあったが、工場新設による増員や新卒採用者が未達のため緊急事態宣言解除後に採用活動を進める予定であるなど、人材を求める声が多く聞かれた。

【景気動向】

7月の景気動向指数（一致指数）は前月比で▲1.3ポイント低下し、8月の中小企業の景況感は同比で▲2ポイント低下した。